



Department of Cardiovascular Medicine



# 東北大学病院 循環器内科広報誌 【第40号】

発行/東北大学病院循環器内科 平成28年4月8日  
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1  
Tel: (022) 717-7153 Fax: (022) 717-7156  
<http://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/index.html>

## 第80回日本循環器学会学術集会のご報告

東北大学病院循環器内科 下川宏明

3月18日(金)～20日(日)の3日間の日程で、**第80回日本循環器学会学術集会**を開催し、成功裡に終了しましたので、ご報告申し上げます。

### 1. 開催概要

今回の学術集会は、第80回であることに加えて**東日本大震災5周年**の節目にも当たり、二重の節目の意味で大きな開催意義がありました。このため、学術集会のテーマを、「日本の循環器病学の過去・現在・未来 -東日本大震災復興5周年-」としました。会場は、仙台国際センター会議棟・展示棟、東北大学100周年記念会館萩ホール、仙台市民会館の4会場を用いました(図1)。展示棟は、震災復興のシンボルの一つとして、仙台市が日循学術集会規模の学術集会が開催できるように建設しました。また、昨年12月には地下鉄東西線が開通し、仙台駅から会場まで5分で着き利便性が向上しました。このように、青葉山麓のコンパクトな会場で学術集会を開催することができました(図1)。お天気にも恵まれ約1万5000名の参加者がありました(市民公開講座除く)。



図1. 会場概観図

### 2. 東日本大震災復興5周年

東日本大震災復興5周年の節目の意義に関しては、東北地域(特に宮城県・岩手県・福島県の被災3県)の大学病院・地域の基幹病院・3県医師会・医療行政等の災害医療への貢献や復興に向けた活動をパネル展示で参加者に広く紹介しました。初日の3月18日(金)の午前中には、被災地を訪問中の**天皇皇后両陛下**がパネル展示展にご臨場賜り、我々の取り組みに関する説明を熱心に聞いていただき、また、慰労のお言葉をいただいたことは、関係者一同の大きな励みになりました(図2)。



図2. 両陛下のご臨場

### 3. 日循学術集会80周年

日循学術集会80回目の節目の意義に関しては、プログラムの中で、「日本循環器学会**80年の歩み**」などの会長企画や20年後の日循100周年を見据えた多くの特別企画を組むとともに、「わが国が誇る循環器研究」と題して、①久山町研究、②冠攣縮、③Na利尿ペプチド、④川崎病、⑤高安病、⑥たこつぼ心筋症を取り上げて、講演やパネル展示で紹介しました(図3)。



図3. 口演会場風景

### 4. その他のプログラム

美甘レクチャーは私の恩師のVanhoutte教授(香港大学)、真下記念講演は東北大学の山本雅之教授(東北メディカルメガバンク機構長)にお願いしました。この他、会長特別企画(18)では、「Editors-in-Chief of the Top Medical Journals」 「重要性を増すCardio-oncology」などを企画・実施しました。さらに、海外演者による特別講演18、プレナリーセッション11、シンポジウム28、海外の7学会との合同シンポジウム、ラウンドテーブル11、トピック8、コントロバシー6、モーニングレクチャー29などを実施しました。コントロバシーやラウンドテーブルでは、壇上で座長・演者がゆっくり座って議論できるように、ソファ式の椅子やレイアウトを実施し好評でした。特別企画・会長特別企画・一般演題・Late-breaking Sessions等、全ての企画を合わせて、合計3294演題の発表に対して、合計815名の方々に座長をお願いしました。

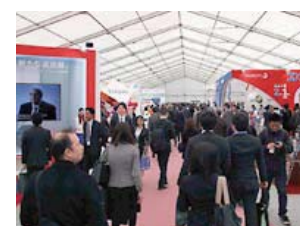


図4. 展示・ポスター会場風景

### 5. おわりに

地下鉄国際センター駅の北側に広い展示・ポスター会場、南側に新設の展示棟が直結しており、参加者には大変好評でした(図4)。本学術集会は、仙台市としても、新展示場と地下鉄東西線開業がセットになった初の大規模な開催になり、宮城県、宮城県医師会、東北大学とともに、全面的なご協力をいただきました(図5)。

多くの皆様のご参加に、心より感謝申し上げます。



図5. 教室員とともに

循環器内科急患ホットライン  
365日24時間対応致します!

080-280-11810 (ニーハオ いいハート)

はじめに

東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災から5年が経過しました。まず初めにお亡くなりになられた方々のご冥福を改めてお祈りいたしますとともに、被害にあわれた皆様にお見舞い申し上げます。

さて、東日本大震災に伴い生じた身体的・精神的ストレスは大変大きなものでした。そのため東日本大震災は循環器疾患の発症・増悪に少なからず影響を与える結果となりました。これらは非常に残念なことでしたが、当科では**東日本大震災に関連した実態調査を行い、今後の災害医療に役立てることが私たちの大切な責務であると考えています。**そこで今回は、東北大学で行った東日本大震災後の調査研究をいくつかご紹介します。

1. 宮城県消防隊出動記録に基づく調査

私たちはまず**宮城県消防本部の協力**を得て、2008年から2011年の上半期、2月から6月までの宮城県内の全救急車搬送記録124,152件を解析し、心不全を含めた心血管病の発症数が震災後どのように変化したかを検討しました。その結果、**震災後には心不全、急性冠症候群、脳梗塞、心肺停止などの心血管病、そして肺炎が増加していることが明らかになりました。**特に心不全は過去3年間に比べて発災後数週間にわたり著明に増加しており(図1)、**震災後の様々なストレスが長期にわたり心不全発症に影響することが示されました**(*Eur Heart J.* 2012;33:2796-803.)。

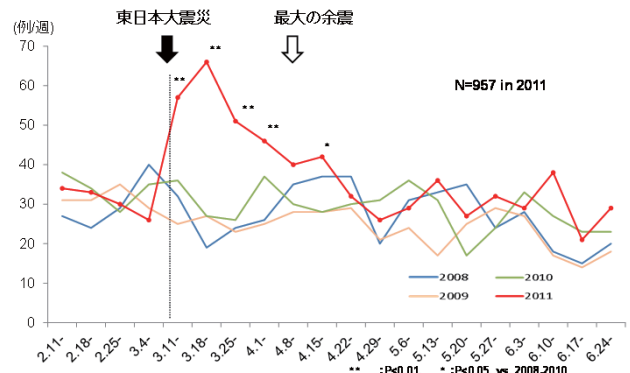


図1: 東日本大震災後の心不全の増加

2. 宮城県沿岸の基幹病院における調査

東北大学病院を含む宮城県沿岸の拠点10病院に入院した14,078症例のカルテ調査の結果からは、**循環器専門医により心不全と診断され加療を受けた患者数は震災後約2か月間、例年に比し大きく増加しており、その傾向は救急車搬送記録による調査の結果と一致しました**(*Circ J.* 2013;77:490-93.)。また東北大学病院循環器内科通院中であったCRT-D又はICD植込み患者170症例において不整脈増加の有無、心不全増悪による入院の頻度を調べた結果、**心室性頻脈性不整脈の頻度は震災後に有意に増加しており、また慢性心不全患者における心不全増悪入院が震災後に増加していました**(図2)(*Circ J.* 2012;76:1283-85.)。

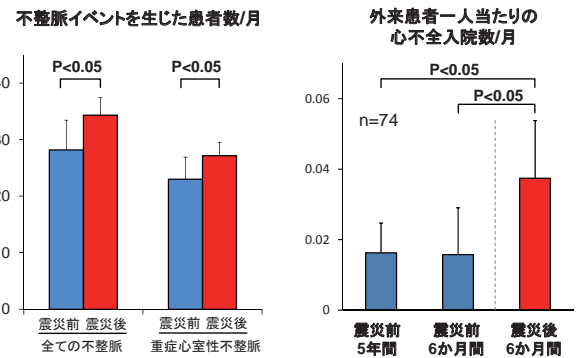


図2: 震災前後の頻脈性不整脈と心不全入院の頻度

3. 第二次東北慢性心不全登録(CHART-2)研究における調査

東北大学では2006年より基幹23病院と連携して慢性心不全およびそのハイリスク症例の前向き調査である「**CHART-2研究**」(N=10,219)を行っています。今回CHART-2研究登録患者を対象にアンケートを行い、**東日本大震災後のストレス障害(PTSD)**について調査しました。その結果、2011,2012,2013年のPTSDの頻度は各々14.7%, 15.7%, 7.4%と高く、**沿岸部や福島第一原発周辺、そして震度の大きかった地域で特に顕著であることがわかりました**(図3)。またPTSD保有は、2年間の追跡期間中18.3%に発生し、死亡を含む心血管事故増加の有意な規定因子でした(相対危険度1.3, P<0.05)。すなわち、**心血管病症例では震災後長期にわたりPTSDが高頻度に存在して予後と関連することが初めて明らかとなりました。**(*Circ J.* 2015;79:664-7.)。

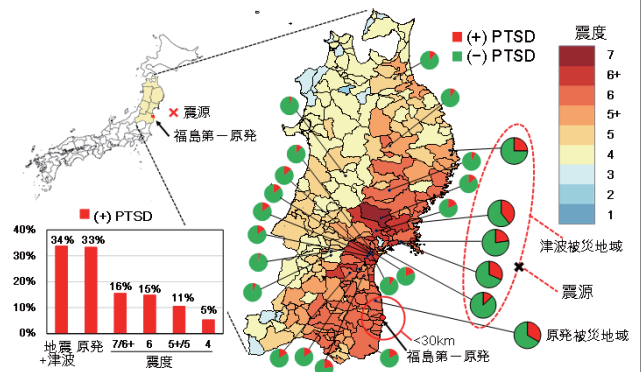


図3: 沿岸部・原発・震度の大きさとPTSD保有頻度

おわりに

これまで人類は世界中で様々な大災害を経験してきましたが、災害が循環器疾患の発症・増悪に及ぼす影響に関して体系的に行われた研究はありませんでした。今回私たちは東日本大震災という大災害に見舞われましたが、各方面の協力を得て実態調査を行い、**大災害後に心不全を中心とした循環器疾患が増加すること、そして災害による精神ストレス障害が長期間継続し、予後に悪影響を及ぼすことを初めて明らかにしました。**これらの知見は、今後の災害医療に大きく貢献するものであり、調査にご協力いただいた皆様に深くお礼申し上げます。

(文責: 坂田泰彦: 准教授・CHARTグループ主任、高橋 潤: 講師・虚血グループ主任)



東北大学循環器内科では**肺高血圧症**の治療発展のため最先端の治療を行っています。**吸入薬の治験も始まりました。**また**肺動脈血栓塞栓症による肺高血圧のバルーン拡張術**も行っています。患者さんのご紹介をお願いいたします。

東北大学循環器内科連絡先(直通)

医局: 022-717-7153  
FAX: 022-717-7156  
外来: 022-717-7728  
病棟: 022-717-7786

患者さんのご紹介・ご相談にご活用下さい。緊急の対応は日中は外来医長が、時間外は日当直医(病棟)が対応いたします。本季刊紙「HEART」に関するご意見・ご質問は下記のメールアドレス、当科HPまで。  
kikanshi@cardio.med.tohoku.ac.jp  
http://www.cardio.med.tohoku.ac.jp/index.html